

令和2年度 宮崎県立高城高等学校との連携事業報告 －「課題研究」ナタ・サポの取組み－

古賀隆一
早川純子
藤本朋美
宮内孝

平成29年3月28日(火)南九州大学と宮崎県立高城高等学校による連携協定を締結した。「相互の資源および機能を活かし、教育・研究及び地域社会の発展に資すること」が本協定の締結の目的である。連携事項は、「1.教育の充実・発展に関すること」「2.学術研究の充実・発展に関すること」「3.地域社会の発展に関すること」「4.その他、双方が必要と認める事項」であった。

そこで、人間発達学部子ども教育学科は、この協定に基づいて高城高等学校の生徒が取り組む課題研究、特に保育分野の学習支援「ナタ・サポ」に取り組んだ。「ナタ」とは、南九州大学を南(ナ)大(タ)と呼び、「サポ」とはサポートを意味する。この「ナタ・サポ」は、本年度で4年目の取組みである。

本年度は、本学科教員が下記の2つの内容についてサポートした。

1. 保育分野に必要な表現系の知識や技術の習得を目指した学習支援
2. 「ちびっこ運動会」の企画・運営のための学習支援

本稿では、このサポートの概要について報告する。

1. 保育分野に必要な表現系の知識や技術習得を目指したサポート

保育分野において必要な、表現リズム、造形、言語表現の知識や技術習得を意図とした学習支援である。具体的には、下記の目的が高校から示された。

- 衣食住・保育等のスペシャリスト育成のため、学習の高度化を図った学習に取り組む。具体的

には、保育検定の分野にもなっている表現リズム、造形、言語表現などに関する実技指導の充実を図る。

- 大学と連携をした授業を展開することで、より専門性の高い学習へ興味関心がわき、将来、大学に進学し、地域貢献できる人材育成に繋げる。このような目標達成に向けて、本学科教員が下記の講義を行った。

(1)造形 担当：古賀 隆一

◇日 時：令和2年6月12日(金)

13時15分～14時55分

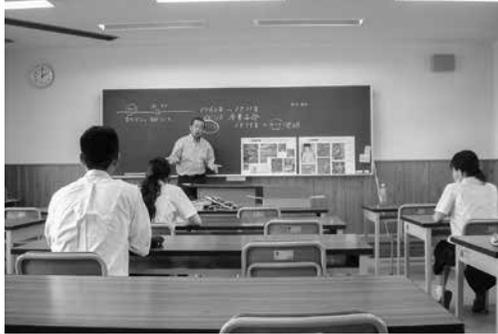
◇対象：3年生：4名(生活文化科)

◇場所：宮崎県立高城高等学校

◇講座内容：「子どもの絵のお話」の冊子を使って講義と実践演習。

幼児教育に関心のある4名の方が受講。美術教育を専門分野としているので、幼児教育の中でも造形表現、図画工作の中で主に幼児画の指導と援助について講じた。絵画表現は、大人と子どもでは全く違う世界であることの理解が、はじめの学びである。子どもの絵を、心理的に理解する上で、幼児期の発達段階から見た心象表現は、感性の働きや情操の想像性から創造力が育まれ、人間形成や人間性に繋がることを伝えた。造形表現は生活の領域で幅広く奥行きもあり、文化の原点の一つでもある。子どもはあそびで育つ、あそびは楽しいからあそびを工夫することが創造することに繋がる。幼少期無文字時代の子どもの造形教育は、教える指導ではなく、あそびの援助をする環境の必要性を強調した。幼児期の絵を見る力は、抽象表現の理解と感性の磨きである。掛け図を使って

美術の基本的な色彩や基礎デッサンについて解説した。色の成り立ちや、デッサンで使用する明暗の考え方や使い方の捉え方は、作例を基に説明した。簡単な実習であるが、受講生に林檎の模型モデルを使って球体に近い形の基礎的なデッサンの実技実践を行った。生徒の皆さんの真剣さが伝わった講座だった。



(2)表現リズム 担当：早川 純子

◇日 時：

- ①令和2年6月26日(金)13時15分～14時55分
- ②令和2年7月17日(金)13時15分～14時55分
- ③令和2年10月9日(金)13時30分～15時30分
- ④令和2年11月27日(金)15時05分～17時00分
- ⑤令和2年12月4日(金)13時30分～15時30分

◇対 象：2年生・3年生(11名)

◇場 所：高城高等学校(音楽室、家庭科実習室)

◇講座内容：

保育検定「音楽リズム」分野の対策を行った。今年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり、8回実施した昨年度に比べると回数は減っている。

検定試験には必ずピアノソロが含まれるが、級位によっては弾き歌いや楽典も入る。そのため、授業内容の多くを個人レッスンによるピアノ実技に費やししながら、講義スタイルによる楽典も実施した。なお、2級については楽典が、1級については楽典に加え、ピアノの弾き歌いも課題となる。級位が上がるにつれて難易度が上がるうえ、対象領域も幅広くなる。

また、ピアノソロの課題曲は、バイエルからの楽曲が対象となり、弾き歌いは保育現場で親しまれている幼児向けの歌が用いられる。楽典については、本学(南九州大学)の1年次科目「音楽」

で取り扱う内容と重なる。難易度は、それと同程度か、音楽大学受験レベルと思われる内容が出題されることもある。

受講者は全員保育検定を受験予定だが、全員が高校卒業後に保育者になるための進路を希望している訳ではない。本学のような養成校への進学を希望している生徒もいれば、そうでない生徒もいた。それでも、合格に向けて他の検定試験勉強もあるなか、時間のやりくりをしながら「音楽リズム」の学習に真剣に取り組んでいた。

(3)言 語 担当：藤本 朋美

◇日 時：令和2年6月19日(金)

令和2年7月3日(金)

13時15分～14時55分

◇対 象：3年生

◇場 所：宮崎県立高城高等学校

◇講座内容：言葉を育てる遊び

- ①保育・幼児教育においてなぜ「絵本」が重要とされるのか、その意味について考える。
- ②「言葉を育てる遊び」にはどのような遊びがあるのか、その種類を知る。(児童文化財：絵本、紙芝居、お話、わらべうた、言葉遊び等)
- ③「絵本」を通して子どもたちに何が育つのかを考える。
- ④絵本の読み聞かせを行い、その留意点を知る。以上4点をねらいとして、実際に絵本に触れながら演習形式で行った。

絵本の魅力を直接感じてほしいと考え、長年読み継がれている作品をはじめとして20冊程度の絵本を持参した。



これまでに職場体験等において絵本の読み聞かせを実際に行ったことのある生徒もあり、講義開始時から生徒同士で絵本を読み合い、アドバイスし合うなど積極的な様子が見られた。

保育検定を見据えた実技指導という側面だけでなく、絵本の魅力や絵本が子どもたちに与える影響について考える時間を過ごすことができた。

2. 「ちびっこ運動会」の企画・運営のためのサ ポート 担当：宮内 孝

「ちびっこ運動会」とは、生活情報科2年生の生徒が高城幼稚園児を招待して実施する運動会のことである。

この運動会の企画・準備そして当日の運営を行う体験を通して、今までの学びを活用させる。さらに、実際に幼児にふれる体験を通して、幼児理解を深めたり、新たな学びを獲得させたりして、今後の学習への動機付けを図ることを目的としている。

(1)「ちびっこ運動会」開催に向けてのワークショップ

◇日 時：令和2年6月23日(火)
6月13時15分～14時00分

◇場 所：宮崎県立高城高等学校

◇講座内容

幼児の発達段階を踏まえた運動会種目の内容や子どもへの指示・説明の仕方などについて実技を交えて行った。運動会種目については、年長児にとって、簡単でしかも勝敗が明確にわかる運動遊びを紹介した。

また、高校生を幼児と見立てて実技をするなかで、子どもへの指示・説明のあり方について指導した。

(2)「ちびっこ運動会」参観

◇日 時：令和2年11月19日(木)
10時00分～11時30分

◇場 所：宮崎県立高城高等学校

「ちびっこ運動会」に参加して、運動の内容や高校生の指示・説明の仕方、そして子どもへのかかわり方の様子を観察した。

(3)「ちびっこ運動会」活動のまとめ

◇日 時：令和2年11月24日(火)
13時15分～14時00分

◇場 所：宮崎県立高城高等学校

◇講座内容

「ちびっこ運動会」の振り返りとして、幼児期に習得させたい3つの「基本的な動き」と「運動の楽しさ」を視点として、運動会で取り上げた種目内容のよさについて解説した。また、「効率的なマネジメント」の視点で、準備・進行・説明・指示や子どもへのかかわり方のよさについて解説した。

このような生徒が行った計画・運営等のよさを肯定しそして意味づけをすることで、生徒の達成感を高めたり、自己肯定感を高めたりする契機となったようである。

3. 「ナタ・サポ」を振り返って

この取組みをスタートして、4年が経過した。この4年間の取組みによって、円滑に本事業が運営できるようになった。

専門家による指導が受けられることもあって、生徒たちは本事業を肯定的に受け入れているようである。

今後は、4年間の取組みを省察して、本事業の充実を図るとともに、新たな連携事業にも取り組みたい。